

復活の新しい朝  
(ルカの福音書 24:1～6)

2016年 1月 1日 聖楽教会 新年感謝礼拝 説教録取

説教：元老監督 <sup>キムキドン</sup>金箕東牧師

神は

新しいいのちの父でおられる

その方が

この世のために新しいのちを与えられたが、すなわち

イエス・キリストでおられる(ヨハネ14:6)

死んだ者にはいのちがないが、

人類には新しいのちが与えられた(ヨハネ17:3)

これが私たちの信仰である(ヨハネ20:30～31)

私たちは信仰によって新しいのちを得たが、

これを

神が認められ、

聖霊が印を押された(Ⅱコリント1:21～22)

私たちは

イエス・キリストが再び生き返られたということを信じる

その方の新しいのちが私たちの信仰にある(Ⅰコリント1:18)

このときから

人間は運命通りに生きるのではなく、

神の賜物である新しいのちによって生きる

一瞬でも復活の力を忘れるのであれば、

その人は不信者である(ルカ24:6)

不信者には新しいのちがない

◎新年は新しいのちによって生き、

新しいのちの中から出て来る祝福によって

祝福を受けなければならない

◎神はこの世に

イエスを遣わされた

イエスは新しいのちでおられる

◎私たちが信仰によって

聖霊を頼るのは

新しいのちが働くためである

※新年は新しいのちによってはじめよう

神とともに新しいのちによって生き、

イエスとともに永遠になろう

## 私たちは父なる神から新しいいのちを受けた

神は新しいいのちの父でおられます。私たちは神を目で見たことはありません。しかし、神から新しいいのちを受けました。そのいのちが私たちの中にあるということを聖霊が証しされます。私たちは聖霊を受けましたし、また、それによって力が私たちの肉体に現れるのを体験しています。神が遣わしてくださったいのちが私たちの中に入って来て働いているのです。

この世の多くの人が運命を頼ります。ある人は生まれた日時によってその人の運命が決まると信じたりもします。私たちもイエスを知らなかったときにはそのようなものを頼りました。しかし、私たちはイエスの中に入って来たのちに運命を完全に葬りました。私たちはそれ以上、運命の奴隷ではありません。バプテスマを受けて水から上がってきた瞬間、私たちはキリストの復活にあずかった者となりました。

聖書は旧約聖書と新約聖書によって構成されています。旧約聖書には将来、イエス・キリストが来てなさる働きについての預言があります。創世記1章に記録された内容によると、神が「光よ。あれ！」といわれると、光が存在するようになりました。神はその光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられました。太陽が昇ると、昼になりますし、日が沈むと、夜になります。そして、夜が過ぎると、再び朝になります。聖書は昼になり、夜になったときを第一日といわないで、夜になり、朝になったときを第一日といいました。これと同じように、イエスがこの地での生涯を終えて死なれたのは神の働きにおいて終わりではありませんでした。神はその方を死者の中からよみがえらせました。

イエスをよみがえらせた神はイエスと結びついた私たちもよみがえらせます。ローマ人への手紙8章11節は「もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。」といいました。それゆえ、私たちは必ず聖霊の証しを受けなければなりません。

## 私たちは聖霊によって呼吸をしている

「聖霊」という言葉には「聖なる呼吸」という意味が含まれています。私たちの肉体は時が来ると、土に帰ります。しかし、私たちの霊は肉体がなくなったのちにも依然としてパラダイスで呼吸をしますし、よみがえったのちには天に入って行って永遠に生きています。

肉体の呼吸は創造されたものです。しかし、私たちがキリストによって得た永遠のいのちは自ら存在しておられる神の中にある、神自身のいのちです。神はそのように貴いいのちを私たちに与えてくださいました。この地で女の体を通して生まれたすべての肉体は呼吸が止まるのと同時に死にます。ところが、神は私たちに永遠な呼吸、すなわち聖霊を与えてくださいました。今、私たちは聖霊によって呼吸をしています。

聖書は聖霊を指して「イエスを信じる者が後になってから受ける御霊」(ヨハネ7:39)といいました。聖霊はイエス・キリストを信じる者だけが受けることができる呼吸です。私たちの中にあるこの聖なる呼吸を無視してはいけません。私たちがそれを無視するのであれば、神も私たちを無視されます。神が私たちを無視されるのであれば、私たちの肉体が呼吸を止める瞬間、霊魂は絶望に陥るようになります。

ガラテヤ人への手紙2章20節は「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」といい

ました。キリストは私たちにいのちを与えるために来られました。私たちはその方のいのちによって生きる者です。この事実を保証するために聖霊が私たちの中に臨まれました。

私たちは聖霊を受け、聖霊が語らせる通りに異言を語りはじめました。ある人は異言の賜物を受けたとしてもそれを用いません。異言は賜物のはじまりです。聖霊は私たちに豊かな賜物と力をいくらでも現してくださいます。

### **恵みの中にとどまり、聖霊によって幸せにならなければならない**

私たちは未来を準備しなければなりません。以前、私たちは神を知ることができなかったために、情欲に従って生きていました。それが罪人の属性です。イエスを信じたような今も私たちは肉体をもっています。しかし、今、私たちは肉体に従って生きないで、聖霊に従って生きます。もう一度言うと、私たちは情欲に従って生きる者でなく、神の恵みによって生きる者です。

みなさんの霊魂は果たして幸せでしょうか？ みなさんの肉体の中に聖霊の幸せをねたむ悪霊が入って来ていないでしょうか？ 惑わしの霊がみなさんの周りを徘徊していないでしょうか？ 空中の権勢をもつ支配者がみなさんを支配していないでしょうか？ みなさんは天の幸せを享受することができないで、むしろうつ病で苦しんでいないでしょうか？ 霊魂の喜びを回復するためにはこのような敵がみなさんを苦しめることができないようにしなければなりません。

灯火をつけておくと、ガラスに黒い煤が生じて火がどんどん暗くなります。それで、灯火をよく管理しなければなりません。祭司長が宮で仕えるときにも常に灯火を明るく維持するために燃えた芯を頻りに切らなければなりません。私たちが聖霊を迎え入れ、賜物をもっていたとしても、私たちの中に燃えた芯が生じるのであれば、霊魂が暗くなるしかありません。それゆえ、燃えた芯を切らなければなりません。神の御言葉を聞いて実践し、それによって私たちの霊魂を幸せにしなければなりません。

聖霊が私たちの中におられるというのは復活のいのちが私たちの中に入って来ているということを意味します。私たちは新しいいのちによって生まれ変わりました。それゆえ、これからは新しいいのちによって生きなければなりません。神が与えてくださった恵みによって生きなければなりません。恵みによって生きてこそ信仰生活をよくすることができますし、あらゆる点で栄えることができます。神が私たちを無視されるのであれば、私たちには何の望みもありません。

神は私たちに祝福を与えてくださいました。私たちがしてきたことを考えるのであれば、私たちは祝福を期待することができない者です。祝福はいうまでもなく、当然に刑罰を受けなければなりません。しかし、神は私たちに恵みを施してくださいました。律法の行為によっては神が施してくださるものを受けることができません。律法の前ではどんなに努力したとしても結局、私たちの罪が現れるだけです。それゆえ、私たちは常に恵みを頼らなければなりません。

悪魔は「お前のような者がどのようにして神が与えるものを受けられるのか？」といて私たちを倒そうとします。そのようなときに私たちは「私は恵みによって生きている。私はこの世の人々が考える成功は得ることができなかったとしても、神の恵みを受けた。」といて、自分が恵みを受けた者であることを認めなければなりません。呪いや病気が臨んでから身もだえしないで、予め恵みを頼らなければなりません。

**主が先に行って待っておられる**

イエスが葬られたのちにイエスの母と女たちが墓に行きました。彼らがイエスの死体を探しているときに天使が現れて「ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたはそこで、お会いできるということです。」(マタイ 28:6~7)といました。イエスの弟子たちはガリラヤに行ってイエスの復活の知らせを伝えようとしていました。ところが、弟子たちがどんなに迅速にエルサレムを離れてガリラヤに到着したとしても、イエスが先にそこに行って待っておられるというのです。

私は以前、全国のさまざまな地域を巡りながら伝道集会を導きました。そのとき、私のはっきりと体験したのは行く先々で主が予め行って準備しておられたという事実です。私たちがイエスを伝えるために他の人の家を訪れるときにも、主はその家に先に行って働いておられます。私たちが主日に教会に行って礼拝をささげるときにも、主が先に行って私たちを待っておられます。私たちが教会で奉仕をするときにも、主は私たちよりも先に行って待っておられますし、私たちが何かを求めるときにも、主は祈りの応答をもって私たちよりも先に行って待っておられます。

新しく明けた今年一年を主は私たちよりも先に行って準備しておられます。願う職場を得ることができなかつたとしても落胆する必要はありません。主は私たちよりも先に行ってさらによいものを準備しておられます。復活のいのちが私たちの中にあるために、私たちは落胆しないで、根気強く待たなければなりません。どのような状況であっても「主が私よりも先に行って待っておられる。」と認めなければなりません。そのようにさえするのであれば、私たちの歩みはどのような状況にあっても決してむなしいものとなりません。

主は私たちが行かなければならない道です。その道が私たちにとって一度も行って見たことがない、不慣れな道であるかもしれません。それでも、恐れてはいけません。主が先に行って私たちを待っておられるという事実を忘れてはいけません。どんなに緊急な事態が私たちを襲ったとしても、主は光よりも早い方でおられるということ覚えなければなりません。私たちの前に大きなことが山のように立ちはだかることもあります。どのようにしてそれを解決しなければならないのかと茫然とすることもあります。しかし、私たちははっきりと知らなければなりません。主は私たちよりも先に行って待っておられます。